週報
こひつじ
第40巻　13号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師　米村　英二

# 青年と老年

## その三　神が特別に許してくださった人生

若い時代は人生の半分に過ぎない。人生の全体の意味がわかるのは、ずっと後のことなのだ。

私はクリスチャンになったとき、すぐに思った。神に自分の人生をささげたいと。

そんな思いを父に告げると、父は猛烈に反対した。私はやむをえず高校卒業後、大阪のシャープ電機に就職した。が、献身の思いはつのってきて、もはや押さえることができなくなった。三年後、とうとう会社をやめ、伝道の道に進んだ。

父はもちろん怒った。が、私の意志が固いのを知ると、言った。

「これからの生活はどうなるのか」

「神戸に住むオランダ人の宣教師のもとで訓練を受けることになる。食べるには困らないが、それ以上のものを受け取ることはないだろう」

父は悔しそうに言った。

「ちゃんとした会社に入って自活できているのに、なぜ今さら人様の世話にならなければならないのか」

こうして私はその日以来、パンと決別し、それとは別のもののために生きる人生を歩み始めたのだった。

が、そのためには精算しておくべき一つのことがあった。

私は高校時代に日本育英会と日本船舶振興会から奨学金をもらっていた。二〇年かけて返せばよかったのだが、これからは収入のない生活に入る。私は自分の貯蓄から全額を一括して返すことにした。当時は、育英会の奨学金の返済は三分の一でよかったので、それができた。するとていねいな感謝状が届いた。

こうして無給の生活が始まった。その一ヶ月後のことだ。やめた会社から退職金が送られて来た。かなりの額で驚いた。

お金があるなら自動車学校へいっしょにゆこう。これからは車の時代なのだからと、ある人に強く誘われた。

でも、私は修道院に入ったつもりでいるのに、将来、車を持つような生活をするとはまったく思っていない。だから断わった。

それならどうするか。

その頃、私は、一九世紀に、宣教師として中国へ行ったハドソン・テーラーの伝記を読んでいた。彼は医者のもとで働いていたのだが、ある日、思った。

中国は何の保証もない国だ。そこで生きるには自分の必要のすべてを神からいただくことを学ばなければならないのではないか。

そこで雇い主の医者が彼に給料を払うのを忘れたとき、請求せず、ただ祈ることにした。だが祈りはすぐにはきかれなかった。そのため、とうとう彼のポケットには、半クラウン銀貨一枚があるだけになった。

そのとき、ひとりの貧しい人がやって来て、自分の妻が病気だから、来て祈ってもらいたいと彼に頼んだのだ。

「では、天の父が恵んでくださるように祈りましょう」

と言って彼がひざまずくと、内側から声が聞こえた。

「偽善者よ。手に銀貨をしっかり握りしめて、あなたは神を父と呼ぶのか」

彼は自分を恥じ、その銀貨を手放して貧しい人に与えた。すると彼の心は驚くべき解放と喜びに満

たされたというのである。

それを読んで思った。

私も彼と同じ道を進もうとしているのではないか。それなら、彼のようにまず無一文になって、今後は、神様が与えてくださるものだけで生きることを学ぶべきだろう。そこで退職金を含め、もっていたものすべてをささげた。大きな解放感があった。

それから五七年、神は、祈らずとも、不思議なほどに、私の必要のすべてを満たしてくださったのである。

「あなたの神、主は、この四十年の間あなたとともにおられ、あなたは、何一つ欠けたものはなかった」（申命記 二の七）

と、四〇年荒野の生活をしたイスラエルの民に神は言われたが、それはまさしく私への言葉でもあった。

会社をやめるとき、父は、どうやって生活するのかと問うたが、その心配は不要だったのである。

私は、あるとき、トマス・ア・ケンピスの『キリストにならいて』という本を読んでいた。すると、その中の一節が私の心に留まった。

「すべてを捨てて、この世を逃れ、修道生活にはいることは、すべての人に許されていることではありません」

考えて見れば、会社勤めも役所勤めもせず、全時間を注いで神を求める生活を私ができたのは、神が特別に私に許してくださったからなのである。

一回きりの人生を、そのように過ごせたというのは何という特権だったのだろう。

人は、伝道者の生活は犠牲の生活だというけれど、そうではない。

確かにそれは経済的豊かさを求める人生ではなかった。成功を求める人生でもなかった。ただ神を求める人生だった。

しかしそんな人生が許されたということはとてもぜいたくなことだったのではないか。

しかも経済的な方面でも、不足することはなかったのである。

今、私は七八歳になるが、もしこれが神に帯を締められ、自分の行きたくない所に連れてゆかれる人生であったとすれば、それはあまりにも恵みに溢れたものであったと感謝するよりほかないのである。（終）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 今日の礼拝

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

○第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は宮元隆博さん。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 先週の礼拝

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

○司会は岩崎宏志さん、奏楽は吉岡裕美さん。

○説教は米村牧師。「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません」（第一テサロニケ 四の一三）から、召された人たちとの再会の希望について語りました。

○第二礼拝後、教会墓地で山下円さんの納骨式が行なわれました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 先週の出席

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

○第一礼拝が四八名、第二が六二名、合計一一〇名（男三七、女七三）。そのほか山下さんのご家族、ご友人が約二〇名ほど来てくださったので、参加者は約一三〇名でした。それに子どもが一〇名、合わせて約一四〇名でした。

○中国のイオンで長く働いておられる小堀優さんのご家族が来て挨拶をしてくださいました。

○ホンダの東京本社に長く勤め、四月から熊本工場に転勤となった野口裕治さんが礼拝につどってくださいました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 案　内

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日、四月七日は、礼拝後、バーベキュー交流会を開催します。雨の場合は、外のカーポートで肉や野菜を焼き、教会の中で食事をすることになります。ぜひ、ご参加ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊